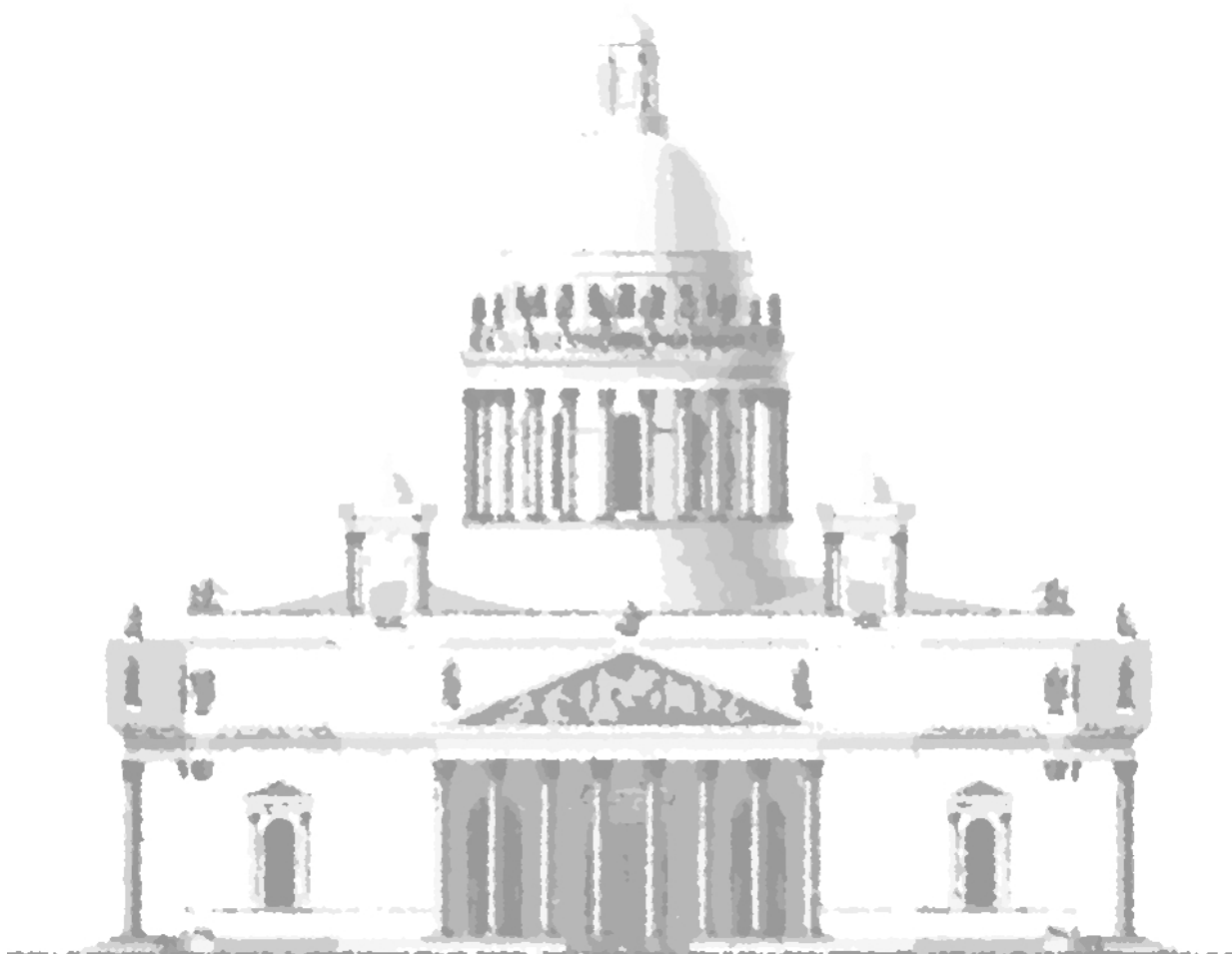




Oak Wind Symphony
第27回 定期演奏会



Oak Wind Symphony 団長 竹 内 連

本日はお忙しい中、私どもの演奏会にお越しいただき、誠に有難うございます。

私どもOak Wind Symphonyは、前身である柏陽高校吹奏楽部OBバンドでの約18年の活動後、2000年8月に一般バンドとして誕生、まもなく創団15年目を迎えます。年2回の定期演奏会のほか、毎年夏の吹奏楽コンクールにおいては、神奈川県代表として東関東大会に通算7回出場という実績も残しています。

順風満帆に見えた当団ですが、実は近年、大きな課題に直面していました。創団当時は、社会人にまざって学生もそれなりに在籍していましたが、年月ともにその割合は次第に減り、今年の年始には活動中の学生団員が1名(!)という時代を迎えました。少子（高齢）化は、当団でも確実に進行していたのです。しかし、まさに学生絶滅の危機にあった今春、ついに待望の学生の団員を複数名迎え入れることができました。学生団員がまっすぐな視線で懸命に吹く姿は、音にすら色つやを失いかけた我々ベテラン団員を初心に帰らせてくれます。同時に、新しい音楽を作り上げる大きな原動力になってくれることを願い、期待に胸を膨らませています。（注）

今回はそんな新しい風を感じながらの演奏会となります。一方に煌めく若さあれば、一方には輝く渋さあり。いびつな人口ピラミッドによるハーモニーがどのような音楽を作り上げるのか、本日は楽しみでなりません。ご来場の皆様におかれましては、どうか温かく見守っていただければと思います。

末筆となりましたが、本日の演奏会を開催するにあたり、各方面からご協力・ご厚意を賜りました。心より御礼申し上げます。拙いながらも、団員一同、精一杯演奏いたします。どうぞごゆっくりとお過ごしください。

（注）当団ではご年齢に関係なく、幅広く団員を募集しております

Oak Wind Symphony

第27回 定期演奏会



2014年6月1日（日）

14:30 開場 / 15:00 開演

鎌倉芸術館 大ホール

— 後援 —

柏陽高校吹奏楽部 OB 会「つばさの会」

鎌倉市教育委員会

第1部

フェスティーヴォ

Festivo

作曲／ エドワード・グREGSON

Edward Gregson (1945-)

コロニアル・ソング

Colonial Song

作曲／ パーシー・グレインジャー

Percy Aldridge Grainger (1882-1961)

行進曲「勇気のトビラ」

Courageous Entry

(2014年度 全日本吹奏楽コンクール 課題曲)

作曲／ 高 橋 宏 樹

Hiroki Takahashi (1979-)

バイバイ・ヴァイオレット

Bye Bye Violet

作曲／ 井 潤 昌 樹

Masaki Itani (1980-)

指揮者の紹介

榮 村 正 吾 (さかえむら しょうご)

1991年東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。

在学中に安宅賞受賞、東京文化会館新人音楽会に出演。シエナ・ウインド・オーケストラのサクソフォーン奏者として1年間活躍。卒業後アサヒビール芸術文化財団の助成金を受け渡仏。フランス国立セルジー・ポントワース音楽院高等科に入学。1992年、パリ国際コンクール第2位受賞。同年同音楽院を首席で卒業、1993年、レオポルド・ベラン・コンクールにおいて第1位および大賞受賞。同年同音楽院演奏科を修了。

フランスをはじめ、ベルギー、イタリア、デンマーク等ヨーロッパ各国において演奏会、音楽祭に出演、好評を博す。帰国後東京文化会館において第1回リサイタルを開催。NHK-FM土曜リサイタルに出演。第10回ワールドサクソフォーンコンGRES（イタリア）、同第11回（スペイン）にそれぞれ参加。

サクソフォーンを佐藤典夫、大室勇一、富岡和男、須川展也、ジャンニイブ・フルモーの各氏に師事。

現在、シエナ・ウインド・オーケストラ サクソフォーン奏者、昭和音楽大学講師など幅広く、精力的に活動している。



第2部

バレエ組曲「青銅の騎士」より

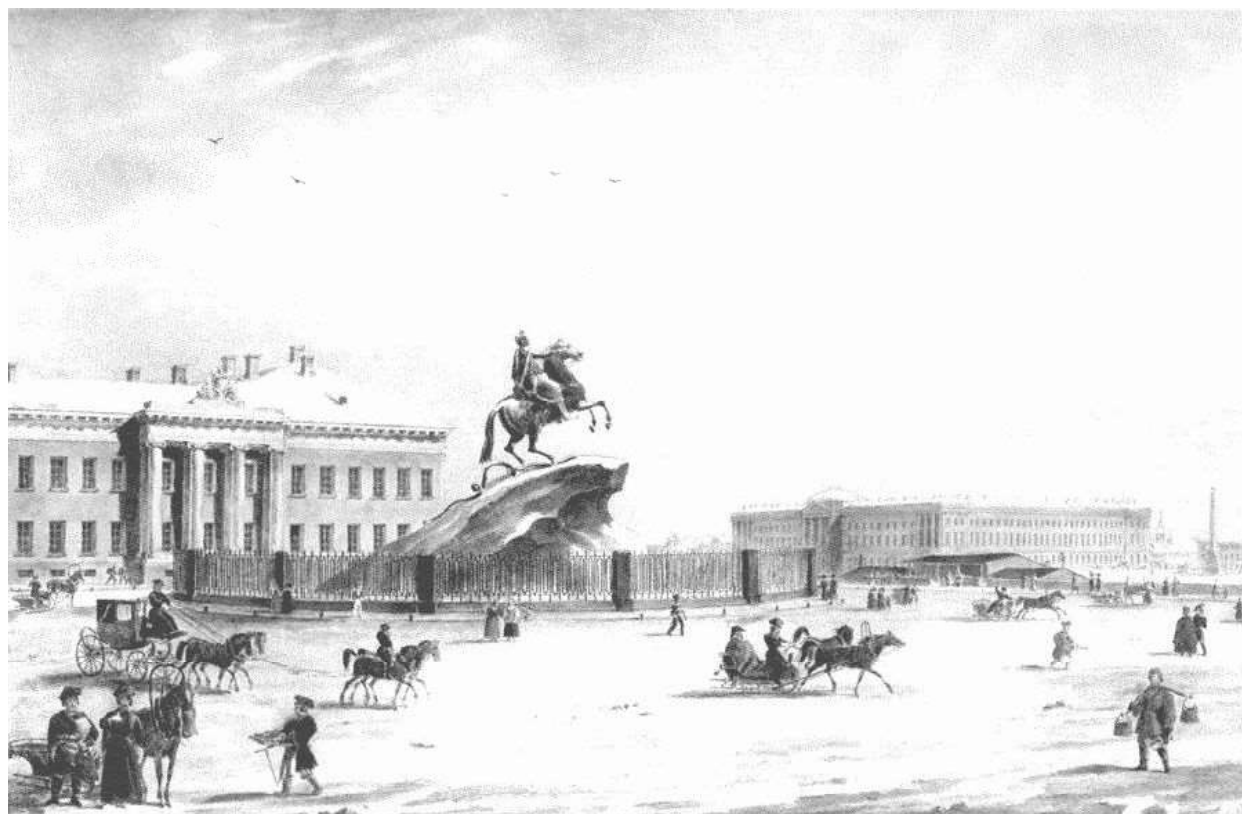
Bronze Horseman (Suite from the Ballet)

作曲／ レインゴリト・グリエール

Reinhold M. Glière (1875-1956)

編曲／ 仲 田 守

- | | | | |
|---|---|------------|------------------------|
| 1 | a | 序曲 | Introduction |
| | b | 元老院広場にて | On the Senate Square |
| | c | 広場での踊り | Dance on the Square |
| 2 | a | エフゲニー | Eugene |
| | b | パラーシャ | Parasha |
| | c | 叙情的なシーン | Lyric Scene |
| 3 | | ダンスの情景 | Dancing Scene |
| 8 | | 偉大なる都市への讃歌 | Hymn to the Great City |



♪ フェスティーヴォ

エドワード・グREGGソンは、英国サンダーランド生まれのイギリス人作曲家です。管弦楽曲だけでなく、劇場音楽、映画音楽、テレビ音楽と同様に合唱曲、室内楽、楽器、オーケストラなどを手がけています。吹奏楽では「剣と王冠(The Sword and the Crown)」が有名。一度は演奏したい曲として挙げる奏者も多くいます。氏は国内外で現代音楽の指揮者として活躍、またゴールドスミス大学やロンドン大学の音楽講師もつとめるなど、精力的に活動しています。

フェスティーヴォ【Festivo】とは、イタリア語で「祝祭的な」という意味です。

祝典の場にふさわしい、華々しい作品。ところどころに変拍子が登場し、軽快に進んでいきます。元になるストーリーはないようですが、一曲を通していろいろな表情を感じることができます。

メロディと伴奏をしっかりと分け、それぞれに固有の旋律を奏でさせるのがグREGGソン氏の作風。自然な旋律を奏でるメロディに対し、正確かつ躍動感ある伴奏。それらが絶妙なバランスで絡み、響きあったときにこそ、氏の音楽を最大限に楽しめることでしょう。

(Bass Clarinet／清水 育子)

♪ コロニアル・ソング

パーシー・グレインジャー(1882～1961)は、イギリス植民地時代のオーストラリアで生まれ、母から音楽の手ほどきを受け、オーストラリアとドイツで音楽を学びました。

卒業後はイギリスへ移住。ピアニストとして活動をすると同時に、エジソンの蓄音機を使ってイギリス民謡の収集活動を行いました。その後アメリカに移住して「リンカーンシャーの花束」という名作も作曲しています。

氏は、「世界でもっとも美しいメロディは民謡の中にある」と考えました。民謡の収集においては、メロディの自由かつ細やかな動きまで、録音機を使って詳細に採譜しました。彼の曲はこのようなして収集された民謡を素材としたものが多く、メロディは美しい一方で、ハーモニーやリズムは、型にはまらない自由で変化に富んだものになっています。このためメロディは口ずさむのは簡単なのですが、いざ演奏してみるとえらく難しかったりします。(特に伴奏系の奏者にとって、汗)

コロニアル・ソングは、グレインジャー氏がイギリス在住時、幼いころからずっと自分のそばにいる母への誕生日プレゼントとして作曲されました。コロニアル(=植民地)というタイトルにある通り、生まれ故郷であるオーストラリアを思い描いた曲です。

メロディは民謡風のオリジナル。前半はシンプルで美しく、後半はやはり細かな節回しや複雑なハーモニー・リズムが登場します。グレインジャー氏の自由奔放さに我々演奏する側も振り回され、もとい、自由奔放さを楽しみながら演奏したいと思います(がんばります 笑)。

(Tuba／五十嵐 史生)

♪ 行進曲「勇気のトビウ」

高橋宏樹氏は1979年東京生まれ。管楽アンサンブルや吹奏楽の作編曲を中心に活動しています。

この行進曲「勇気のトビウ」は、2014年度吹奏楽コンクール課題曲(5曲あるうちの1曲)です。氏の曲はこれまでも、2003・2005・2010年度の同コンクール課題曲に採用されています。

「勇気をもって前に突き進んでいく」というイメージで作られた曲。メロディの入りやいたるところに登場する4つの音(E・F・F $\sharp$ ・G)は、勇気がみなぎってくる様子を表しています。

曲は6/8拍子のマーチですが、これは一般的に4拍子・2拍子よりも難しいといわれます。日本人にはなじみの薄い拍子だからでしょうか…。高橋氏も、「調も拍子もなかなかやっかい…いや練習しがいのある曲になっています」とおっしゃっています。

夏の吹奏楽コンクールへ向けて、楽しく演奏します。

♪ バイバイ・ヴァイオレット

作曲者の井潤昌樹^{いたにまさき}氏はこう記しています。「『ヴァイオレット』には、どこか気紛れな哀しみと、手の届かない美しさがあると、私は思う」と。

失恋。

それは生きながらにして、愛する人を失うこと。世界が崩れていくような、たてようもないあの悲しみ。やるせなく、悔しく、出るのはただ涙ばかり。ほろ苦い思い出になるまでは、ただただじっと待つしかありません。

古来万葉集の時代より、失恋は詩の題材として選ばれ、多くの人の思いを受け止めて歌われて来ました。今でもEXILEが、コブクロが、スピッツが、アンジェラ・アキが、そのほか多くのミュージシャンが、恋の終わりを曲にして、人々の共感を誘っています。

井潤氏は1980年生まれ34歳。新進気鋭の作曲家で、2008年の全日本吹奏楽コンクール課題曲「火の断章」、その他「愛の祭壇」、「束の間の恋の歌」、「恋す蝶」などの曲をつぎつぎと送り出しています。

この「バイバイ・ヴァイオレット」は失恋の曲で、2010年に兵庫県立伊丹高校により初演されました。

曲は激情とその後に訪れる悲しみで始まり、時折呼び覚まされる怒り、よき思い出の回想を交えながら修羅場を迎えます。そして諦めからくる束の間の平安を経て、ふたたびやるせない思いの中でフィナーレとなります。

青春にあるほろ苦い思い出を、私たちの情念溢れる演奏で思い起こして頂ければと存じます。

(Alto & Contra Alto Clarinet / 河村 俊志)

♪ バレエ音楽「青銅の騎士」より

日本で銅像といえば、鎌倉の大仏、渋谷のハチ公、上野公園の西郷さんなどを思い浮かべる人が多いかもしれません。銅像には仏像や神像のほか、偉人の偉業を称えるものがありますが、世界では偉人の銅像が各地に建てられています。今回とりあげるのは、ロシアのある偉人の銅像と、それにまつわる物語です。

● サンクトペテルブルクの「青銅の騎士」像

モスクワの北西に、ロシア第二の都市サンクトペテルブルクがあります。この都市には後ろ足で大蛇を踏みつけ遠くを見つめる騎馬像が建っています。これはピョートル1世（1672-1725）の像であり、「青銅の騎士」と呼ばれて人々に親しまれてきました。ピョートル1世はロシア帝国の初代皇帝で、その業績から偉大な皇帝、「大帝」と呼ばれています。

● ピョートル大帝

ピョートル大帝の若かりし頃、17世紀後半のフランスでは太陽王ルイ14世が絶対専制君主として君臨して華やかな文化をつくり、イギリスでは市民革命を経て近代的な国家の枠組みが作られていました。そんなヨーロッパの中心に比べ、ロシアははるか東方の田舎の国。ピョートルは軍事や科学の技術を学ぶための使節をヨーロッパに派遣し、自らも造船技術を学ぶために偽名を使って船大工として働きました。しかし、彼は身長2メートルを超す大男だったため、偽名を使ってもバレバレだったようです。ピョートルはヨーロッパでの視察を踏まえ、国内の西欧化改革を進めました。彼の行った改革については賛否両論ありますが、エピソードに事欠かない豪快な生き様は、今でも多くのロシア人に愛されています。

● サンクトペテルブルク

ピョートル大帝は、ロシア西部のネヴァ川沿いの地域を占領すると、港湾都市の建設を始めました。この地は交通の要衝として貿易の中心になることを期待されましたが、地盤が弱く、洪水も頻繁に起こったためにその建設には多大な犠牲を払いました。この都市はキリスト教の聖人である「聖ペトロ」の名を冠して「サンクトペテルブルク」（聖ペトロの町）と名づけられました。しかし、ペトロはロシア語ではピョートルとなるため、実際はピョートルの名を冠した町ということになります。ピョートルはこの町に遷都して大都市へと発展させました。その後時代が変わりソヴィエト連邦ができると、街は革命の指導者であるレーニンにちなみ「レニングラード」と名を変えました。しかし、1991年に住民投票によってもとの「サンクトペテルブルク」に戻され現在に至ります。

● プーシキンの『青銅の騎士』

ロシアの国民的詩人であるアレクサンドル・プーシキン（1799-1837）はサンクトペテルブルクで起こった大洪水を題材に『青銅の騎士』を書き上げました。また、この叙事詩をもとにしたグリエールのバレエは、プーシキンの生誕150年を祝って製作されました。

● 作曲者レインゴルト・グリエール（1875-1956）

楽器職人の父のもとに、グリエールはキエフ（当時はロシア帝国領で、現在ウクライナの首都）で生まれました。音楽家としての活動を行うかたわらで、教育者としてプロコフィエフやハチャトゥリャンなどの作曲家を育てました。作曲家としては多くの作品を残し、名実ともにソ連を代表する作曲家となりました。キエフにはグリエールの功績をたたえ、彼の名前を冠したグリエール音楽大学があります。

● あらすじ

主人公のエフゲニーはサンクトペテルブルクの大洪水で最愛の恋人・パラーシャを失ってしまいました。絶望の淵でエフゲニーは、「洪水が愛する人を奪った！洪水が起こるような場所に都市を作ったピョートル大帝こそがすべての元凶だ！」と考えるようになりました。

理性を失ったエフゲニーは、街の創設者であるピョートル大帝の像に戦いを挑みます。

今回とりあげる組曲は、全4幕のバレエを下記8曲に再構成して作成されました。

- 1－a 導入部
 - b 元老院広場での踊り
 - c 広場での踊り
- 2－a エフゲニー
 - b パラーシャ
 - c 抒情的場面
- 3 踊りの情景
- 4－a 占い
 - b 輪舞
- 5 出会い（第二の叙情的場面）
- 6 ワルツ
- 7 胸騒ぎ
- 8 偉大なる都市への賛歌

組曲最後の「偉大なる都市への賛歌」は、サンクトペテルブルクの人々に長年にわたって愛されてきました。その結果2003年にはこの曲を元に市歌が作成されました。また、サンクトペテルブルクで開かれる演奏会ではこの曲がアンコールの定番となっています。

日本では1996年に全日本吹奏楽コンクール東関東大会にて習志野市立第五中学校吹奏楽部が演奏したことで注目されるようになりました。今回は全8曲のうち、4曲を抜粋して演奏いたします。

(Trumpet／木村 正宏)

次回の演奏会のご案内

本日はお楽しみいただけましたか？ 次回の演奏会は次のとおりです！

第28回 定期演奏会

日時 ： 2014年12月頃（予定）

場所 ： 横浜市内公会堂（予定）

詳細が決定次第、当団ホームページに掲載いたします

<http://www.oak-wind.sakura.ne.jp/oak/>

団 員 募 集

Oak Wind Symphony では一緒に演奏を楽しむ仲間を募集します！

（秋以降の募集となります）

若さあふれる大学生団員も、渋さがキラリと光るベテラン団員も、お互いに刺激をしあいつつ活動が繰り広げられています。（若さあふれるベテラン団員・渋さにじみ出る若手団員もいます…）
見学、入団希望の方は下記へご連絡下さい。

募 集 パ ー ト ： 現在は募集を見合わせています

※ 募集再開は本年秋ごろを予定しておりますので、ホームページをご確認ください

練 習 日 ： 原則毎週土曜日夕方（本番前は追加練習あり）

練 習 場 所 ： 横浜市南区を中心とした公共施設

連絡先（E-Mail） ： meet-oak@oakwindsymphony.sakura.ne.jp

ホ ー ム ペ ー ジ ： <http://www.oak-wind.sakura.ne.jp/oak/>

Conductor

☆: 団内指揮者 ♪: パートリーダー

榮 村 正 吾

Flute & Piccolo

♪ 荒 井 みちえ
大 熊 真悠子
竹 内 恵 美
山 田 茜
吉 岡 紀 子

Alto Clarinet

山 口 生 子

Bass Clarinet

清 水 育 子
新 野 瑠 美

Trumpet & Cornet

浅 井 映
木 村 正 宏
齋 藤 博 樹
佐 藤 容 子
藤 田 哲 朗
♪ 山 邊 愛

String Bass

青 木 優 果

Piano

蘇 我 田鶴子

Percussion

池 見 浩
磯 野 綾 子
加 藤 結 香
☆ 志 水 栄 雄
♪ 田 中 祐 一
濱 崎 英里香
吉 野 みどり

Oboe & English Horn

大 植 めぐみ
♪ 松 林 雄 一
山 内 基

Contra Alto Clarinet

河 村 俊 志

Soprano

& Alto Saxophone

☆ 小 野 剛 司
池 田 彩 紀
木 村 真理江
♪ 関 香 子

Horn

駒 比路樹
高 橋 有 紗
高 橋 研 介
高 橋 志 帆
田 中 美紗樹
平 川 潔
♪ 山 崎 亜希恵

Bassoon

奥 田 三香子
菊 池 愛

E♭ Clarinet

関 和 彦

Tenor Saxophone

櫻 井 秋 来
堀 下 美 樹

Trombone

島 田 陽 花
下 村 有 香
戸 井 真 智
♪ 中 野 雄 次

B♭ Clarinet

石 井 敬 子
☆ 井 上 正 人
岩 下 直 紀
☆ 清 水 裕 介
志 水 玲 子
高 島 百合野
高 橋 聖 子
竹 内 連
中 川 朋
♪ 広 島 愛 子
松 宮 千 恵
山 下 祥 代

Baritone Saxophone

佐 藤 恭 子

Euphonium

♪ 神 蔵 真 純
川 口 莉 奈
松 谷 俊 介

Tuba

五十嵐 史 生
伊 藤 優 里
真 下 勝 実

司 会

金 重 陽 平



Oak Wind Symphony
